

50 く60代の先輩たちが若い頃立ち上げた祭りを、うまく世代交代しながら継承してきた数少ない祭の一つだと思っています。しかし、年々実行委員メンバーが少なくなり、負担が増えてきていることが気になっています。実行委員会が機能しなくなり、祭りができなくなる可能性が出てくる

実行委員として
感じていることは？



三輪車レース (第20回)



早かごレース (第17回)



上野池で開催された「わしらがこさえた船の競演in庄原」(第13回)

かもしれませんが。祭りを続けていくためには、実行委員だけが頑張るのではなく、皆さんが企画したり、出店してもらったりと、どんな形でもいいので自分たちで祭りをやろうと思っていただけける形に持っていきたい。多くの皆さんにかかわっていただいて、市民全体で盛り上げる祭り、というのが理想です。それは、いったんゼロに戻してから作っていくことも必要だと思っています。

初 回から今年の30回までを写真などで振り返れるよう編集を行っています。今年の祭り終了後、できるだけ早い時期に完成させて配布したいと考えています。その回ならではの催しや特徴的な出来事など、懐かしんで読んでいただけたらと思いますし、歴史を感じていただけない若い人たちにも楽しんで読んでいただけるものと思います。

記念紙を発行されると
聞きました

合 併した当初、各地域からの参加を呼びかけ、一緒になって祭りを盛り上げたいという思いがありました。しかし、それぞれの地域にも祭りがあり、よいとこ祭に人手や時間を注いでいただくことがなかなかできませんでした。今は、お互いの祭りを引き来して交流をしようと、若い者同士で話をしています。もつと各地域から来てもらえれば盛り上がることは間違いないと思います。去年は「よいとこレインボー」で各地域の力もいただいていたことが、今後につながる糧になったと感じています。

合併して5年。
何かかわりましたか？

30 回という記念の節目ということで、正直当初は荷が重いのと思いました。が、せっかくなのでいただいた機会なので受けさせていただきました。今は、とにかくいい祭りにしたいという気持ちです。

実行委員長に就任しました。
今の気持ちは？

第30回 庄原よいとこ祭
実行委員長

きだ いり えい じ
貞入 英二さん
(有)新和舗道 専務取締役 38歳



今年で30回目の節目を迎える庄原よいとこ祭。祭りまで残り1カ月を切り、目前に迫った。その思いと意気込みを貞入実行委員長に聞きました。

庄原よいとこ祭

Shobara Yoitoko matsuiri 30th anniversary

30回を迎えて思うことは？

歴 史ある祭りですが、20回からはそれまでと祭りの趣向が変わり、時代に合うような祭りに少しずつ変化してきたように感じます。またそのことが、30年間続けられた要因の一つだと思います。節目となる30回を機に、またこれまでとは違うことを模索していきたいと考えています。中には、昔の企画を復活させようという意見や、踊りの代わりに何か新しいことができないかという意見もあります。今定着しているこのスタイルが受け入れられているという面がある中で、こういった議論を積み重ねながら、来年度以降につなげられる記念の祭りにしたいと思っています。



連日議論を交わす実行委員メンバー

今年の目標は？

厩 原市を元気にすることが目標です。祭りをもつと盛大にしたという気持ちはありますが、今、不景気で参加協賛企業も協賛金も減り、市からの補助金も厳しい中で、それは難しいことです。しかし、気持ちだけは派手に、不景気を吹き飛ばせるような、元気が出る祭りにしたい。「不景気だからこそ元気を出したい」という皆さんの気持ちをこの祭りに結集する。その役割を担いたいと思っています。

最後に一言

見 るだけでいい、食べに来るだけいい、参加してくればもつといい。とにかく皆さん祭りに足を運んでください。それだけで、笑顔になって元気が出てきます。庄原を一緒に盛り上げましょう！

開催日程および内容は28Pに掲載しています。



作成中の記念紙の表紙